

SDGs達成に向けて貢献してまいります。

SDGsとは、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で採択された、世界の貧困をなくし持続可能な世界を実現するための国際社会共通の目標（Sustainable Development Goals）のことで、2030年までに解決を目指す国際目標であり、17の目標と169のターゲットで構成されています。

フコク生命の取組みとSDGs

ゴール	取組内容	ゴール	取組内容
1 貧困をなくそう	●生命保険業を通じた保障の提供 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(開発途上国の貧困削減、開発支援、生物多様性の保全)への投資 ●「フコク生命 THE MUTUAL 基金」の創設	10 人や国の不平等をなくそう	●高齢のお客さまや障がいをお持ちのお客さまへの取組み ●障がい者雇用・女性活躍の推進 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(障がい者支援)への投資 ●グリーンリボンランニングフェスティバルへの特別協賛 ●障がいをお持ちの生徒作品の展示(「すまいる・ぎやらりー」の開催) ●「フコク生命 THE MUTUAL 基金」の創設
2 飢餓をゼロに	●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(生物多様性の保全)への投資	11 住み続けられるまちづくりを	●省エネ、省資源への取組み ●被災地への復興応援活動 ●フコク・クリーン倶楽部(FCC)活動 ●環境配慮型の不動産開発
3 すべての人に健康と福祉を	●生命保険業を通じた保障の提供 ●フコク赤ちゃん&キッズクラブの運営 ●ピンクリボン運動、ハロースマイルへの協力 ●健康経営への取組み ●健康経営配当による企業の健康経営活動を支援 ●グリーンリボンランニングフェスティバルへの特別協賛 ●フコクからだサポートの運営 ●地域の福祉への寄付を募る「チャリティコンサート」の開催 ●「フコク生命 THE MUTUAL 基金」の創設	12 つくる責任 つかう責任	●省エネ、省資源への取組み ●食材ロスの削減(「THE MUTUAL」および「さいくれよん」の配布) ●環境配慮型の不動産開発
4 質の高い教育をみんなに	●ライフプランセミナーの実施 ●数学の特別授業の実施 ●特別支援学校向けに訪問コンサートを開催 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(子どもの教育支援)への投資	13 気候変動に具体的な対策を	●役職員による山林保護活動「フコク生命(いのち)の森プロジェクト」の実施 ●クールビズの推進(「THE MUTUAL」ポロシャツの着用) ●世界銀行のグリーンボンドへの投資 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(生物多様性の保全)への投資
5 ジェンダー平等を実現しよう	●フコク赤ちゃん&キッズクラブの運営 ●女性の活躍推進 ●米州開発銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(女性・妊産婦の健康と就業を支援)	14 海の豊かさを守ろう	●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(生物多様性の保全)への投資 ●プラスチックの削減(「THE MUTUAL」エコバッグの配布)
6 安全な水とトイレを世界中に	●アフリカ開発銀行のインテグレート・アフリカ・ボンド、インフラストラクチャー・ボンドへの投資(アフリカ大陸の地域統合・インフラ開発の支援)	15 陸の豊かさを守ろう	●役職員による山林保護活動「フコク生命(いのち)の森プロジェクト」の実施 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(生物多様性の保全)への投資
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	●再生可能エネルギープロジェクトへの融資 ●グリーンボンドへの投資 ●環境配慮型の不動産開発 ●アフリカ開発銀行のライト・アップ・アンド・パワー・アフリカ・ボンド(アフリカ大陸の電力普及支援)への投資	16 平和と公正をすべての人に	●コーポレートガバナンスの強化 ●コンプライアンスの推進 ●マネー・ローンダリング及びテロ資金供与、反社会的勢力への対応
8 働きがいも経済成長も	●健康経営への取組み ●働き方改革の推進 ●障がい者雇用の推進 ●仕事と子育て・介護の両立支援	17 パートナーシップで目標を達成しよう	●国連責任投資原則(PRI)への署名 ●スチュワードシップ活動 ●「THE MUTUAL」をコンセプトとした100周年プロジェクトの取組み ●特殊詐欺の被害防止に関する警察との連携 ●自治体との連携協定の推進 ●グリーンリボンランニングフェスティバルへの特別協賛
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	●ITを活用したサービスの提供 ●アフリカ開発銀行のインテグレート・アフリカ・ボンド、インフラストラクチャー・ボンドへの投資(アフリカ大陸の地域統合・インフラ開発の支援) ●インフラ強化プロジェクトへの融資		



環境へ配慮した活動を推進しております。

温暖化対策をはじめとする気候変動の問題は、持続可能な社会に与える影響が大きいと考えております。当社は、環境保護への取組み(省エネ・省資源への取組み・山林保護活動)や資産運用を通じた取組み(ESG投融資)などを通じて、環境へ配慮した活動を推進しております。

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への対応

当社は2020年6月に、金融安定理事会により設置された気候関連財務情報開示タスクフォースの提言(以下、TCFD提言)への賛同を表明しました。TCFD提言への賛同は、気候変動問題の重要性を認識したうえで、安心で持続可能な社会の実現を目指す当社の姿勢を表明するものです。



●ガバナンス

サステナビリティワーキンググループにて、気候変動問題を含むSDGs取組状況のモニタリングを行い、取締役会に報告しております。

●戦略

気候変動関連リスクの適切な管理を通じて、収益の下振れを抑制するとともに、収益獲得の機会としても活用してまいります。

【リスク】

- 地球温暖化に伴う台風や洪水などの自然災害の発生による保険金等の支払増加や、平均気温上昇に伴う蚊を媒介とする熱帯性感染症などの発生および熱中症患者の増加による疾病罹患率・死亡率の上昇(物理的リスク)
- 低炭素・脱炭素社会への移行に伴う政策変更や技術革新などによる投融資資産の価値の毀損(移行リスク)
- 気候変動問題の主因である温室効果ガスの排出削減に取り組みないことによる評判の悪化(風評リスク)

【機会】

- 気候変動がもたらす様々なリスクによる保障ニーズの増加
- 気候変動問題の解決に資する企業やプロジェクトへの投融資による運用収益の獲得機会の増加
- 減災などの取組みによるステークホルダーからの評価の向上

●リスク管理

地球温暖化および大規模水害に伴うリスクをエマージングリスクとして特定し、発生の可能性と影響度の評価を行い、統合的リスクの観点で管理しております。

【物理的リスク】

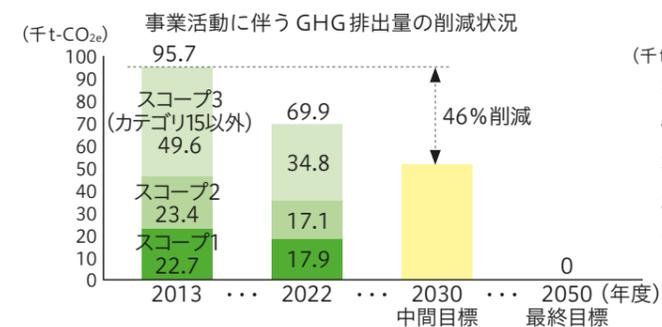
- 平均気温の上昇による熱帯感染症の流行および熱中症患者の増加についてシナリオテストを実施し、保険金および給付金の増加額の定量的評価を行い、財務への影響を確認
- 大規模水害(高潮および洪水)について営業拠点ごとのリスクを5段階で評価

【移行リスク】

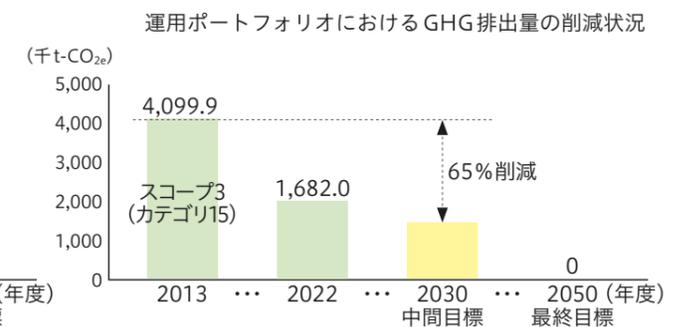
- 低炭素・脱炭素社会への移行に伴う政策変更や技術革新などにより生じる信用リスクや市場リスクの適切な管理とその高度化

●指標と目標

【生命保険事業者】



【機関投資家】



指標	実績	目標
事業活動に伴う GHG 排出量	2022年度 (2013年度比)	2030年度 (2013年度比)
スコープ1+2+3 ^{※1}	27.0%削減	46%削減
		ネットゼロ

指標	実績	目標
運用ポートフォリオにおける GHG 排出量 ^{※2}	2022年度 (2013年度比)	2030年度 (2013年度比)
スコープ3(カテゴリ15)	59.0%削減	65%削減
		ネットゼロ

※1 スコープ1、2、3とはGHGプロトコルが定める事業者のGHG排出量算定報告基準における概念であり、以下を指す
 スコープ1：当社の燃料使用による直接排出
 スコープ2：当社が購入した電気・熱の使用による間接排出
 スコープ3：スコープ1、2以外の事業活動に伴う間接排出、対象はカテゴリ1(購入した製品・サービス)、カテゴリ3(スコープ1・2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動)、カテゴリ4(輸送、配送)、カテゴリ5(事業活動から出る廃棄物)、カテゴリ6(出張)、カテゴリ7(雇用者の通勤)、カテゴリ12(販売した製品の廃棄)、カテゴリ13(リース資産(下流))とする。カテゴリ15(投資)は「運用ポートフォリオにおけるGHG排出量」として、別途管理

※2 国内上場企業の株式・債券・融資を対象、測定対象は投融資先企業のスコープ1+2
 MSCI社が提供するGHG排出量の実績値および推計値を使用。提供する数値がない場合は、親会社に含めるか業種別のインテンシティを用いて算出

【ロードマップ】

2022～2030年度

2031～2050年度

● 事業者としての取組み

スコープ1の取組み

- 社有車、リース車のEV・PHV・FCV化の推進
- その他営業利用車のEV・PHV・FCV化の推進

スコープ2の取組み

- 営業用ビルのZEB化など環境配慮型の不動産開発の推進、再生可能エネルギーの活用、太陽光発電設備の設置

スコープ3の取組み

- お客さまお手続きにおけるペーパーレス化の推進
- その他事務全般におけるペーパーレス化の推進
- 賃貸用ビルのZEB化など環境配慮型の不動産開発の推進、再生可能エネルギーの活用、太陽光発電設備の設置

● 機関投資家としての取組み

- GHG排出量削減について、投融資先企業との対話を通じた働きかけを実施
- 脱炭素社会の実現に資するグリーンファイナンスの投融資や再生可能エネルギーのプロジェクト・ファイナンスへの参画、脱炭素への移行を支援するためのトランジションファイナンスの投融資を実施

● 環境保護への取組み

「フコク生命(いのち)の森」プロジェクト

2006年度より、環境保護活動に参加・体験することのできる場として、「竹害[※]対策」を主とした「フコク生命(いのち)の森」プロジェクトを実施しております。

本プロジェクトは、当社が静岡県伊東市宇佐美に保有する山林を保全するため、竹林伐採を当社役職員の手によって行う活動です。森の再生だけでなく、間伐により竹林自体も健全な状態に戻していくことを目標とし、社内の有志により組織された「宇佐美倶楽部」が中心となって活動しています。竹林伐採以外にもたけのこ掘りなどの活動とおして職員の参加を促し、自然保護への関心を高めています。



※孟宗竹が森林を侵食すると、根の浅い竹林が地すべりや表土の流失の原因ともなり、山林の荒廃や土砂崩れなどの災害を引き起こします。

環境配慮型の不動産開発

当社は、建物の新築の際に省エネや環境に配慮した不動産開発を行っております。持続可能な社会の実現に向けた取組みとして、次世代型不動産の基軸となる環境認証制度である、建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)において、オフィスビルで3棟がZEB Readyの認証を取得しております。また、賃貸用マンションでも、これまでに3棟がZEH-M Orientedの認証を取得しました。



吉祥寺フコク生命ビル
2023年度竣工

名古屋シミズ富国生命ビル
2023年度竣工

フコク・クリーン倶楽部(FCC)活動

2006年度より、千葉ニュータウン本社勤務者有志の団体「フコク・クリーン倶楽部(FCC)」による、最寄駅「北総鉄道千葉ニュータウン中央駅」の駅前清掃活動を実施しております。



よりよい社会づくりのため、さまざまな社会貢献活動に取り組んでおります。

● 芸術文化(アート)をとおして、つながっていくさまざまな活動

芸術文化(アート)には、「さまざまな人々をつなげていく力」があります。当社はこれまでクラシック音楽のコンサート活動を通じ、多くのお客さまや地域の方々、また障がいのある子どもたちと音楽をとおして、つながってまいりました。そして、こうした芸術文化(アート)による活動は、コンサートだけにとどまらず、さまざまな活動へと発展・成長し続けております。

「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」

この活動は、1989年度に始まった内幸町本社ビルでのロビーコンサート「フコク・サロンコンサート」から発展してきました。

プロの音楽家による本物のクラシック音楽を、特別支援学校や障がい者施設の方々へお届けする「訪問コンサート」と、地域の福祉にお役立ていただくために、ご来場の皆さまから募金に協力していただく「チャリティコンサート」を、同じ地域であわせて開催しております。

「チャリティコンサート」は、2023年度末までに通算306回開催し、寄付総額は約6,597万円となりました。



2023年度「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」開催実績

主催	訪問コンサート			チャリティコンサート		
	回数	開催日	訪問先	回数	開催日	会場
北見	255	2023年6月29日	北海道北見支援学校	302	2023年6月28日	北見芸術文化ホール
京都	256	2023年10月20日	京都市立東山総合支援学校	303	2023年10月19日	京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ
千葉NT本社	257	2023年11月2日	千葉県立船橋特別支援学校	304	2023年11月1日	フコク生命 千葉NT研修センター
高知	258	2024年1月31日	高知県立盲学校	305	2024年1月30日	高知県立県民文化ホール オレンジホール
内幸町本社	259	2024年2月21日	筑波大学附属桐が丘特別支援学校	306	2024年2月20日	紀尾井ホール

(訪問先敬称略)

「フコク生命 すまいる・こんさーと」

特別支援学校や障がい者施設の子どもたちへこれまで以上に「音楽の贈り物」をお届けしたいとの想いから、2022年度より「訪問コンサート」のみを開催する活動を実施しています。



2023年度「フコク生命 すまいる・こんさーと」開催実績

主催	すまいる・こんさーと					
	回数	開催日	訪問先	回数	開催日	訪問先
水戸	18	2023年5月30日	茨城県立内原特別支援学校	19	2023年5月31日	茨城県立下妻特別支援学校
前橋	20	2023年7月4日	群馬県立吾妻特別支援学校	21	2023年7月5日	群馬県立しらがね特別支援学校
山形	22	2023年7月18日	山形県立新庄養護学校	23	2023年7月19日	山形県立酒田特別支援学校
宮崎	24	2023年9月14日	宮崎県立みなみのかげ支援学校	25	2023年9月15日	宮崎県立日南くろしお支援学校
仙台	26	2023年9月28日	宮城県立支援学校女川高等学園	27	2023年9月29日	宮城県立石巻支援学校
松本	28	2023年10月16日	長野県木曾養護学校	29	2023年10月17日	長野県伊那養護学校
沖縄	30	2023年12月5日	沖縄県立那覇みらい支援学校	31	2023年12月6日	沖縄県立大平特別支援学校

(訪問先敬称略)

「フコク生命パートナー・アーティスト」

コンサートに出演するのは、当社の活動趣旨に賛同し、相互理解を深めた「フコク生命パートナー・アーティスト」です。

単なる出演者ではなく、ともにさまざまなプログラム創りなども行い、活動を進めていく重要なパートナーです。日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーや、国内外で活躍するトップレベルの音楽家で構成されています。



「フコク生命パートナー・コンサート・チューナー」

「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」の趣旨に賛同していただいているタカギクラヴィア株式会社に、「フコク生命パートナー・コンサート・チューナー」として当社のコンサート活動をサポートしていただいております。

世界三大名器の一つである「スタインウェイ」社製のピアノを、ホールや訪問先まで自社で運搬・搬入し、ピアニストの個性に合わせた調律はコンサートの要となっています。



ピアノの調律風景

「すまいる・ぎやらりー」～特別支援学校生徒作品展～

2012年度より、障がいのある子どもたちのアート制作を応援する活動として、全国の特別支援学校生徒の美術作品を展示する企画「すまいる・ぎやらりー」を開催しております。この活動は、当社が2003年度から行ってきた特別支援学校へお伺いして開催する「訪問コンサート」をとおした交流の中から生まれました。

2013年度より、出展作品を使用したカレンダーを作成し、フコク生命の代表的なカレンダーのひとつとして当社職員がお客様へお配りしています。

「すまいる・ぎやらりー」をとおして少しでも障がいのある子どもたちのアート制作を応援できればと思っております。

なお、当社ホームページでも出展作品をご覧いただけます。



当社内幸町本社ビル地下2階の商店街壁面に作品を展示

2023年度「すまいる・ぎやらりー」開催実績

すまいる・ぎやらりー	
開催期間	出展校
2023年4月10日～2023年5月6日	福島県立須賀川支援学校
2023年5月15日～2023年6月3日	福島県立あぶくま支援学校
2023年6月12日～2023年7月8日	福島県立郡山支援学校
2023年7月18日～2023年8月5日	宮城県立船岡支援学校
2023年8月14日～2023年9月2日	福島県立石川支援学校
2023年9月11日～2023年10月7日	福島県立大笹生支援学校
2023年10月16日～2023年11月4日	千葉県立特別支援学校流山高等学園
2023年11月13日～2023年12月2日	筑波大学附属聴覚特別支援学校
2023年12月11日～2023年12月29日	岩手県立気仙光陵支援学校
2024年1月15日～2024年2月3日	東京都立光明学園
2024年2月13日～2024年3月2日	岩手県立釜石祥雲支援学校 しゃくなげ教室
2024年3月11日～2024年3月30日	千葉県立矢切特別支援学校

(開催時期順・敬称略)



当社作成のカレンダー

METライブビューイングへの協賛

ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場(MET)で上演されたオペラ公演をハイビジョン映像で映画化し、上映する「METライブビューイング(松竹株式会社配給)」に協賛しております。最上級のオペラ芸術に接する機会をご提供する活動に協賛することで、芸術文化振興に貢献しております。

2023-24シーズンも、2023年9月よりニューヨーク・メトロポリタン歌劇場にて開幕し、引き続き、「METライブビューイング2023-24」に協賛しております。



《運命の力》©Karen Almon / Metropolitan Opera

被災地への復興応援活動(被災地特産品販売会)

東日本大震災で被災した福島県・宮城県・岩手県の東北3県の「被災地特産品販売会」を、2011年度より内幸町本社・千葉ニュータウン本社にて継続して開催しております。

2023年度は、コロナ禍前と同様に対面での販売を実施しました。

また各県販売会の開催時に、千葉ニュータウン本社食堂にて、各県特産品を使用した特別メニューを販売し、その代金の一部を被災地の子どもたちに寄付しました。



千葉ニュータウン本社
気仙沼産カツオカツとまぐろカツの
野菜タルタルソース



宮城県特産品販売会

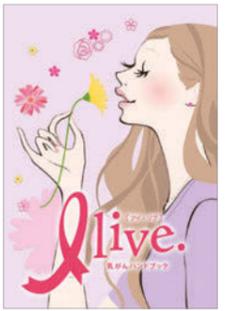
ピンクリボン運動、Hellosmile (ハロースマイル) への協力

当社では、2008年度より乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていくピンクリボンフェスティバルへの協賛などを通じ、ピンクリボン活動を支援しております。

2011年度からは子宮頸がんの予防啓発を推進するプロジェクトの支援も行っております。

具体的な取組みとして、当社職員がピンクリボンバ

ジやHellosmileバッジをつけ「啓発パンフレット」などをお客さまに配布して、検診の大切さを伝えるなどの活動を行っております。



認知症サポーター認定取得の推進

2018年10月より認知症の方へ適切な対応ができるよう認知症サポーター認定の推進を開始しました。2024年4月1日時点で7,955名が認知症サポーター認定を取得し、認知症症状のある方やそのご家族に接する機会があった際、適切な手助けを行っております。

また2019年度から全国の支社・本社に自前で認知症サポーター養成講座を実施する「認知症キャラバン・メイト」を配置しました。



「特殊詐欺」被害防止に向けた啓発活動への協力

社会問題となっている「特殊詐欺」の被害防止に協力するため、お客さまアドバイザーと各都道府県警察が共同で使用可能な特殊詐欺被害防止啓発用のチラシ・ティッシュを作成しました。2023年度までに32都道府県の警察にご協力いただき、警察署にチラシ・ティッシュを配備していただき、駅前などでお客さまアドバイザーと共同で配布するなどしてご活用いただいております。



各都道府県警と共同で作成しているティッシュ (画像は旭川版)



各都道府県警と共同で作成しているチラシ (画像は旭川版)

大阪富国生命ビルでの産学連携活動への支援

2010年に竣工の大阪富国生命ビルは、瓜生山学園京都芸術大学「大阪サテライトキャンパス」、立命館大学「大阪梅田キャンパス」など、大学関係施設や産学連携活動の支援施設などを誘致し、芸術文化、健康などに関する情報を地域社会に発信しております。

また、大阪大学の先生方が中心となり設立された植物研究を通じた緑豊かな生活環境の構築を目指す「智の木協会」へも参画しております。



社有不動産活用による待機児童解消に向けた取組み

待機児童問題などの社会的な課題解決へ貢献するため社有不動産に保育所等を積極的に誘致しており、現在では、東京都に2カ所、埼玉県、大阪府、和歌山県に各1カ所ずつ開設され、地域の皆さまにご利用いただいております。



● ESG 投融資について

ESG 投融資に対する基本的な考え方

当社は、「ご契約者の利益擁護」という経営理念のもと、生命保険という商品の負債特性を踏まえながら、安全かつ有利の原則に従い、将来にわたって高水準の運用収益を確保する資産運用を実践するとともに、「生命保険事業を営む相互会社として、持続可能な社会の実現に貢献する」という経営方針に則り、ESG（環境・社会・ガバナンス）課題を考慮した投融資に取り組んでいます。ESG 投融資は、お客さまからお預かりしている大切な資金の収益性向上に資すると同時に、「社会への貢献」を経営理念の一つに掲げる当社の機関投資家としての責務をより一層果たしうると考えています。

このような考えのもと、当社は、2016年3月に国連の責任投資原則（PRI）に署名し、投融資の意思決定プロセスに ESG 課題を組み込んでいるほか、スチュワードシップ活動においては ESG 課題をテーマの一つとし、投資先企業との対話などに注力しています。また、2020年6月には、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言に賛同しました。

今後も、気候変動を含む社会の持続可能性に影響を及ぼす様々な課題に対する問題意識を持ち、一定の収益性を確保することを前提として、ESG 投融資やスチュワードシップ活動の取組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

責任投資原則（PRI）の署名

当社は、国連の責任投資原則（PRI）の趣旨に賛同し、2016年3月21日に署名機関となりました。同原則では、持続可能な社会の実現を後押しするために、ESG 課題を投資の意思決定プロセスに組み込むことなどが示されています。



ESG 投融資の主な取組事例

「生命保険事業を営む相互会社として、持続可能な社会の実現へ貢献する」という経営方針に則り、環境問題を含む社会的課題の解決につながるテーマを持った資産等への投融資に取り組んでおります。

●女性の健康と地位向上を支援する取組み

2024年3月に米州開発銀行が発行するサステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資を実施しました。この債券は、中南米・カリブ海諸国における女性の健康支援と地位向上の実現を目的とするプロジェクト等を後押しするものです。この目的のもと、米州開発銀行が取り組む事例には、ドミニカ共和国における女性のための包括的な社会福祉サービスを提供する「ウーマンシティーセンター」建設プロジェクトなどがあります。



Source: IDB

●リサーチへの組み込み

国内株式について、銘柄選定の際、PRI 署名機関で ESG 評価にかかる豊富なノウハウを有する子会社の富国生命投資顧問より提供される ESG スコアにもとづくスクリーニングを実施しているほか、スチュワードシップ活動において把握した ESG 情報も投資判断の要素に含めております。また、一部の債券について ESG 情報にもとづくスクリーニングを実施しております。

ESG 投融資の実績

上記のような取組みの結果、2023年度の ESG 投融資新規実行額は893億円となりました。また、2023年度末の ESG 投融資残高は6,066億円と、運用資産全体のおよそ9%を占めております。

●スチュワードシップ活動

当社は、「責任ある機関投資家」の諸原則「日本版スチュワードシップ・コード」を受け入れ、「スチュワードシップ責任を果たすための方針」「スチュワードシップ責任を果たすに当たり管理すべき利益相反についての方針」「議決権行使についての方針」を制定し、主要投資先企業との建設的な「目的を持った対話」（エンゲージメント）に注力しております。スチュワードシップ委員会では、議決権の行使結果や対話の実施状況などスチュワードシップ責任を果たすための取組み状況を審議し、その内容は取締役会に報告しております。社外委員を委員長とするスチュワードシップ委員会での審議内容を踏まえつつ PDCA サイクルを継続的に実践し、スチュワードシップ活動の透明性および実効性の向上を図っております。

引き続き、投資先企業とのエンゲージメントや議決権行使などのスチュワードシップ活動を通じ投資先企業の持続的成長を促し、お客さまからお預かりした大切な資金の中長期的なリターンの拡大に資するよう努めてまいります。なお、スチュワードシップ活動の詳細については、当社のホームページで公表しております。

